

緊急

2項目
署名

公立全日制高校の入学枠拡大

全日制普通科入試を1回に

**このままでは大量の
不合格者が出てしまいます**

今春(13年3月)の後期入試では5875人が不合格となりました。そして、最終的に高校へ行けないという生徒も生まれています。

特に、来年度の高校入試では、大阪府の公立中学校卒業生数が約2120人と大きく増える予定です。**【下表参照】**

これに対して、今春の公私比率で対応するだけでも、公立で少なくとも約1300人の募集定員増(クラスに換算すると33学級数増)を緊急に行う必要があります。

さらにデフレ不況が厳しい大阪では、今後、府内中学生の公立高校志望はさらに強まること予想されます。

高校に行けない生徒をこれ以上ふやさないためには、全日制高校の入学枠をさらに大幅に拡大することが急務になっていきます。



公立高校二回入試で 二万六千人が不合格

すべての全日制普通科高校で今春、二度の入試が行われました。

前期入試13年2月実施では、募集人員80人の枠に507人の出願があった高校など、定員の一部を先に募集したこと

により、普通科の平均倍率は3.4倍に膨れ上がり、6倍を超える高校も6校ありました。

その結果、26000人が不合格となる前代未聞の事態が生じました。

その不合格者のうち、その後、後期試験13年3月実施でも同じ学校を受験した割合は、各校で54%~98%にのぼり、それぞれが合格、不合格になっていきます。

同じ入学枠なのに2度もくり返して入試をすることは、多くの中学生に余分な負担と過度の競争をあたえ、「不合格」という挫折感や、深い心の

傷を与えました。

また3学期における中学校の授業や進路指導を困難にし、高校側にも授業を中断して余計な入試業務の負担を押しつけるものともなっています。

全国各地ですすむ 二回入試の見直し

二回入試は、今全国各地で見直しがすすんでいます。

近畿では、和歌山県が07年度に導入しましたが「受検生に、過度な心理的負担をかけない」という理由で、2年間で廃止しています。

さらに静岡県が07年度で「15歳の子にとって、前期不合格のダメージが大きい」と廃止し、最近では、埼玉県が11年度で、

さらに静岡県が07年度で「15歳の子にとって、前期不合格のダメージが大きい」と廃止し、最近では、埼玉県が11年度で、

青年部 バーベキュー大会☆

【日時】10月19日(土)

【時間】12:00~

【場所】いよやかの郷

(岸和田)



緊急2項目

◆公立全日制高校における入学枠の大幅拡大を求めます

◆公立高校前期・後期2回入試を1回に戻すよう求めます

泉北教組に加入して、「評価・育成システム」をなくそう

ムダな競争をあおるだけであり、全く必要がありません。新たな制度改変が、子どもたちの心を傷つけ、中学校と高校の教育に新たな困難を広げています。。